



『英賀城の跡』をたずねて

「戦国史播磨国原青嵐」 冬子

英賀城の歴史(「英城日記」「英賀日記」を主資料にしてまとめたものである)

英賀城は室町時代の中ごろ赤松氏の一族によってつくられたが、嘉吉元年(1441)5月、城主祐尚が没したので、そのあとへ恋浜(白浜町)城主の三木氏が移ってきて大きな城につくりかえた。以来、秀吉に滅ぼされるまで140年間、東は的形、西は室津の間を支配した三木氏の居城として栄えた。

通近 貞治元年(1362)―嘉吉2年(1442) [在城] 嘉吉元年(1441)―嘉吉2年(1442)

恋浜から移って英賀城主になると、まず英賀彦の社に菅原道真を勧請して天満宮(今の英賀神社)

と改称した。英賀神社には銅鐘(国重文)、天神縁起絵巻(県重文)など多数の文化財が保存されている。

近重 通重 通近の子と孫であるが英賀城主になった記録がなく、ひまごの通武があとを継いだ。

通武 応永21年(1414)―寛正5年(1464) [在城] 嘉吉3年(1443)―寛正5年(1464)

赤松満祐が嘉吉の乱(1441)に敗れたのち、播磨は山名氏が支配した。通武は山名氏に属し享徳3年(1454)には大規模な築城工事を成しとげた。南の海岸、田井が浜を掘って港をつくり、北面は東より広辻口・芝ノ口など十の出入口を土塁をもって曲輪に結び、外側は人馬もひざを没する沼沢地帯を外濠(大木之濠)にして城を固め、名も岩繫城と改めた。

通安 永享4年(1432)―明応5年(1496) [在城] 寛正5年(1464)―文明12年(1480)

長祿3年(1459)赤松政則が赤松家を再興し、応仁の乱には細川氏に従う。通安は山名氏に属していたが機をみて政則をたすけ、赤松家に帰属した。家系の安泰をはかって四本家・七頭将の制度を設けた。

通規 康正2年(1456)―享祿3年(1530) [在城] 文明12年(1480)―永正16年(1519)

文明から明応の頃、英賀の城下で浄土真宗の布教活動が始まる。明応8年(1499)通規が入信したので、城下近郷における布教の実は大いにあがる。永正9年(1512)には本願寺から実円院主を迎え、3年後に英賀本徳寺が建立されて播州における浄土真宗の基礎が確立された。この本徳寺は、のち天正8年(1580)2月、英賀落城ののち亀山に移された。

通秀 延徳3年(1491)―天文13年(1544) [在城] 永正16年(1519)―大永7年(1527)

通明 永正5年(1508)―天正6年(1578) [在城] 大永7年(1527)―天文13年(1544)

通秋 天文3年(1534)―天正11年(1583) [在城] 天文13年(1544)―天正8年(1580)

本願寺と信長の争いは根深いものがあった。元亀元年(1570)通秋は石山本願寺の光佐(顕如上人)の要請にこたえ、糧米3千余俵と援兵を田井が浜から舟で送った。

天正8年(1580)1月17日、三木城が陥ると秀吉は兵を英賀にむけ2月11日未明から城を攻めた。この日に備えて英賀城の守りは堅かったが、12日の夜になって秀吉の誘いに三木与一兵衛等5人が応じて城内へ敵を誘導するという不測の事態に加え、秀吉側の焼討ちに城内は大混乱となり、城も町も一夜の間に廃墟となり果てた。

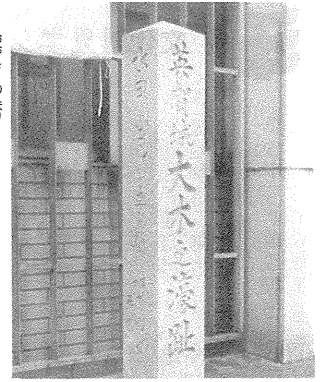


③ 英賀城土塁の碑

④ 河下口跡の碑
こうげぐち



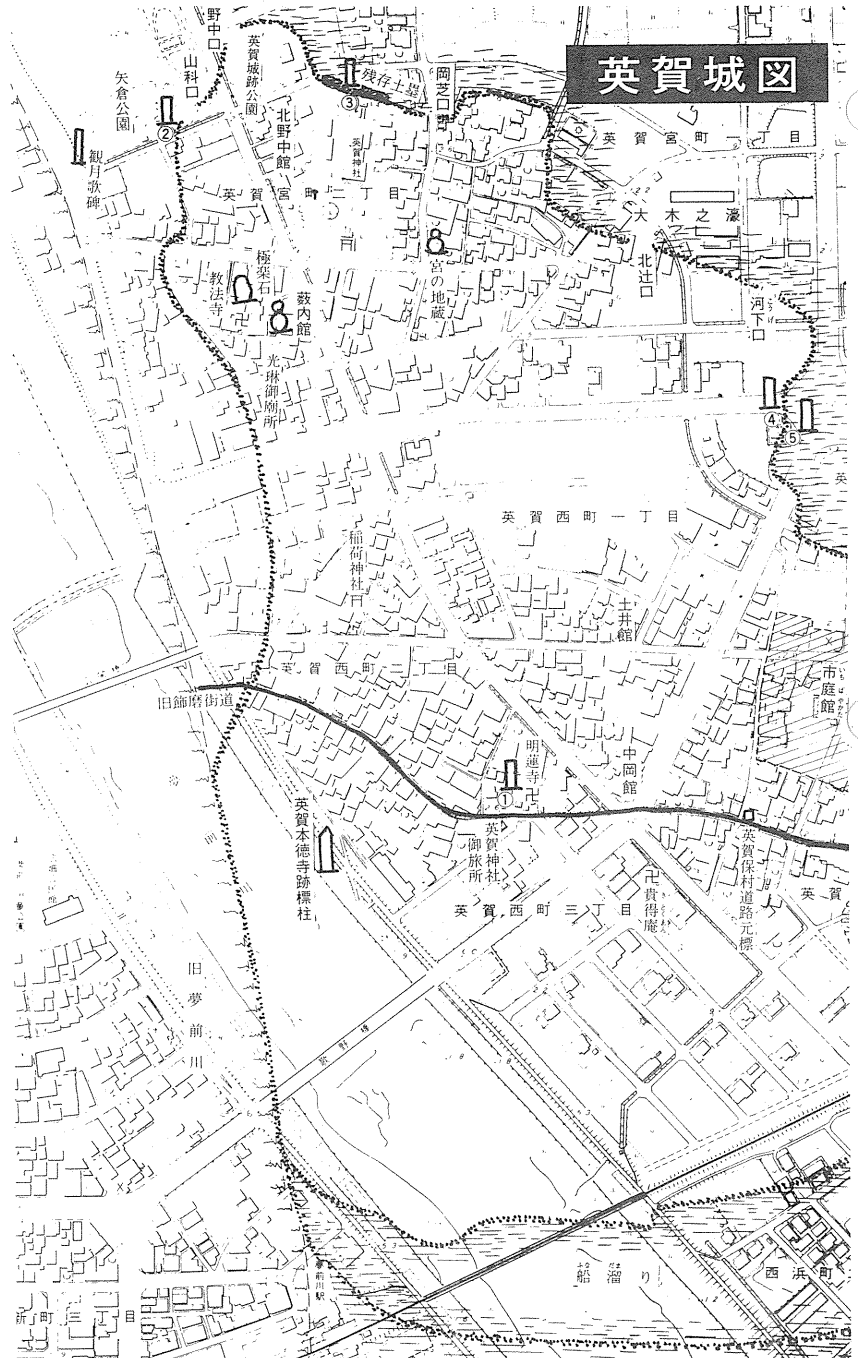
⑤ 大木之濠跡の碑
おおきのほり



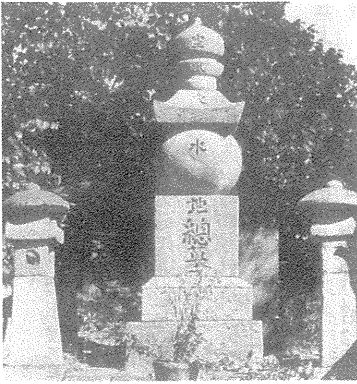
② 山科口跡の碑
やましなぐち



① 英賀本徳寺跡の碑



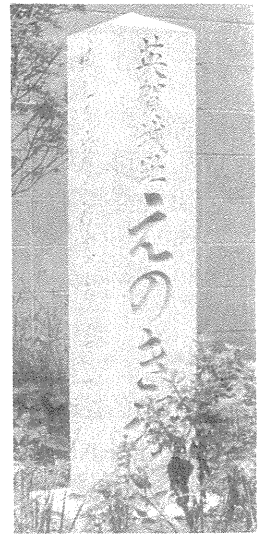
⑥ 城主の墓



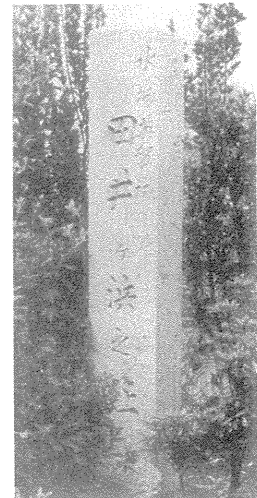
⑦ 英賀城本丸跡の碑



⑧ 本丸の跡を伝えてきたエノキ 樹令500年といわれてきたが昭和37年ごろ枯死。



⑨ えのき塚の碑



⑩ 田井が浜跡の碑

城内には一族の館7、真宗寺院20余もあってにぎわった。落城後も残っていた土塁は昭和13年から始った区画整理でほとんど消滅した。しかし各所に建っている碑は、城跡をしるよすがとなっている。

城主一族の館は地図の中の○○館と記入した所につくられたようである。そのうち市庭館は、城主通規が建てた。大広間・桐・桜・松・柳の間のほかに侍部屋、下僕部屋・茶室などがあり、広大な屋敷であった。



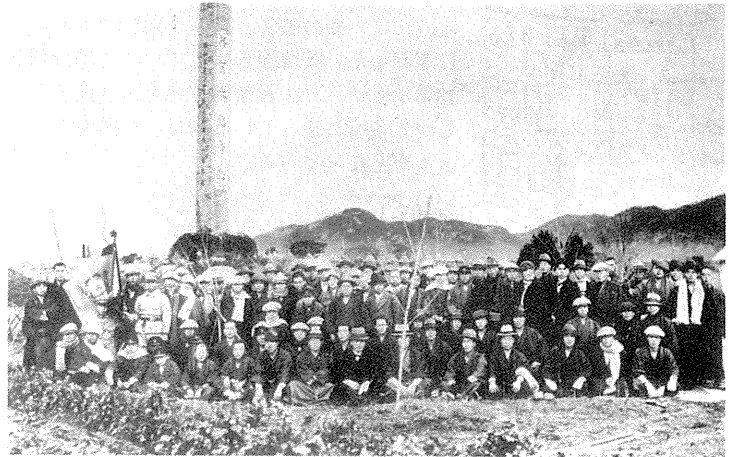


◀ 井上口、大木口間の土壘と湿田
 (英賀神社提供 昭12・11撮影)

英賀本徳寺跡の碑を建てた記念写真
 (崎谷医院提供)
 碑は昭和三年十一月、御大典記念に青年会が建てた。このあたりは、今は夢前川の川底になっている。碑は明蓮寺に移された。



嘉吉三年九月十八日の文字が裏面にある額(英賀神社蔵)



本徳寺跡出土の^{せん}磚と^{たんかまい}炭化米(英賀神社提供)
 発掘調査は昭和17年に行われた。瓦・土器・礎石炭化米のほか磚も出土した。磚は水路の両側に立てて並べてあった。写真の中央は磚を積みかさねたもの、その両側が炭化米のかたまり。

その他の見どころ

- 大木之清水……………英賀薬師
- ^{てん}天和3年の名号塔 …… ♪
- 文化15年の手洗鉢 …… ♪
- 延宝8年の大鳥居……………英賀神社
- ^{かんぶん}寛文7年の手洗鉢…………… ♪
- 狩野常信筆の絵馬ほか …… ♪
- ^{りやくおう}曆応2年の五輪塔地輪 …… ♪
- ^{えいろく}永禄10年の鬼瓦 …… ♪
- 英賀社青松の歌碑…………… ♪
- ^{えん}煙雨の庭の歌碑…………… ♪
- 再築の土壘……………英賀城跡公園